

開催年月日 令和4年6月24日（金）

質問者 日本共産党 宮川 潤 委員

答弁者 健康安全局長 古郡 修
がん対策等担当課長 佐藤 行広

質問内容	答弁内容
<p>二 がん対策について</p> <p>（一）死因およびがん罹患率について 死亡原因としてがんの割合が高くなっていると認識しているが、どういう状況ですか。 また、がん罹患率の推移、本道のがん罹患率について、全国と比較してお示しください。</p> <p>（二）がん検診受診率の比較について 本道はがんによる死亡率が高く、罹患率も高いということですが、その対策がとられているかということであり、最も大きな対策は検診だと考えます。各部位のがん検診受診率について、本道と全国平均を比較してお示しください。</p> <p>（三）がん検診受診率の推移について 検診受診率の低さが死亡率などへ反映しているとも考えられます。本道の各部位のがん検診受診率ですが、下がってきているものもあるのではないですか。その要因と併せてお示しください。</p> <p>検診体制の強化などについて、決意が示されたので、確実に進めていただきたいと申し上げておきたいと思います。</p> <p>（四）希少がんについて 希少がんについてであります。治療にあたり道内各地から札幌の医療機関を受診しなければならぬということもあり、交通費あるいは宿泊費もかかることとなります。身体的、精神的、経済的に大変だと思っておりますが、実態をどのように把握していますか。支援を強化すべきと思いますが、いかがお考えかお伺いします。</p>	<p>【がん対策等担当課長】 死因及びがん罹患率についてでございますが、がんは昭和56年以降、全国、全道とも、死亡原因の第一位となっており、令和2年のがんによる年齢調整死亡率は、人口10万人当たり全国で69.6、全道で78.9となっているところでございます。 また、平成28年以降、北海道の罹患率は全国を上回っており、令和元年のがんの年齢調整罹患率は、人口10万人当たり全国で387.4、北海道で413.0となっているところでございます。</p> <p>【がん対策等担当課長】 がん検診受診率の全国との比較についてでございますが、受診率は3年ごとの公表となっており、直近で把握している令和元年のがん検診受診率については、胃がんは全国39.0%北海道34.0%、肺がんは全国45.8%北海道37.8%、大腸がんは全国41.2%北海道34.6%、子宮頸がんは全国35.8%北海道30.7%、乳がんは全国37.4%北海道30.1%となっており、いずれの部位においても北海道は全国を下回っているところでございます。</p> <p>【がん対策等担当課長】 がん検診受診率の推移についてでございますが、直近で把握している令和元年と平成28年とを比較しますと、全国においては公表されている5つの部位全てで受診率が上昇している一方、北海道においては、胃がん、子宮頸がん、乳がんの受診率は減少しておりますが、全国、全道とも、長期的には、受診率が上昇してきている状況でございます。 個別部位ごとの受診率の減少要因は把握できないものの、広域分散型で積雪寒冷地であるなどの本道の地域特性や、市町村における受診勧奨の取組が進んでいないなどの要因が関係し、本道の受診率は低位にとどまっているものと考えており、より一層の普及啓発や道民の皆様が受診しやすい検診体制づくりを進めてまいります。</p> <p>【がん対策等担当課長】 実態把握などについてでございますが、道ではこれまで、がん患者の方々の声などを施策に反映させるため、がん経験者の方などが構成員となるがん対策推進委員会でご意見を伺いますほか、患者支援団体との意見交換に努めており、患者の方々などからは、希少ながんのため情報量が少なく、病気について知ることに苦労したことや医療費や通院費などの経済的な負担が大きいなどのご意見を伺ってきたところでございます。</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>人工透析をされている方の交通費助成や出産のための交通費助成などが実施されていますけれども、希少がんの場合、特に道内各地から札幌に受診に来なくてはならないということもあり、交通費や宿泊費の負担が重いものと捉えています。是非前向きに考えますように申し上げておきたいと思います。</p> <p>(五) 予算について 今年度のがん対策予算について、全体額と施設設備費を除いた場合についてそれぞれ最大時と比較してお示してください。</p> <p>(六) 今後の対策について がん対策予算は、私は減らす状況になっていないと思います。今後の本道のがん対策について、検診受診率の向上策、小児がん、AYA世代対策を含めて今後のがん対策の強化について、見解を伺います。</p>	<p>道といたしましては、今後とも患者の方々の意見を伺う機会を確保し、施策への反映に努めてまいりますとともに、希少がんについての情報提供や電話相談を行っている国の希少がんセンターのほか、道内の患者団体が運営している患者サロンや、遠隔地から入院する患者に付き添うご家族などのためのファミリーハウスなどの情報を道のホームページに掲載するなど、希少がんを含むがん患者の方々が安心して、必要な医療を受けることのできる環境づくりを進めてまいります。</p> <p>【がん対策等担当課長】 がん対策に係る予算についてでございますが、今年度のがん対策予算の全体額は244,644千円、施設設備整備費を除いた予算額は163,964千円となっておりますところでございます。 北海道がん対策推進条例を制定した平成24年以降でがん対策予算の全体額の最大は、平成25年の1,086,334千円、施設設備整備費を除いた予算額の最大は、平成24年の201,393千円となっております、比較すると今年度は、全体額で841,670千円、施設設備整備費を除いた額で37,529千円の減少となっておりますところでございます。</p> <p>【健康安全局長】 今後のがん対策についてであります。道では第3期北海道がん対策推進計画に基づきまして、生活習慣の改善やがん検診の重要性について、普及啓発に取り組むほか、医療機器整備への助成など、医療提供体制の整備や、就労支援や相談支援体制の充実、更には、小児・AYA世代の方が行う妊孕性温存療法への支援など、がんになっても安心して暮らせる社会の構築に取り組んでまいりました。 今後、市町村、医療機関、患者団体、企業などの皆様とより一層連携し、がん検診の受診促進やがんの予防や早期発見に係る効果的な広報活動を展開するとともに、地域の医療機関とがん診療連携拠点病院等との連携を強化し、必要な医療を早期に受けられるよう体制づくりを進めますとともに、道民の皆様とともに、がんに負けない社会の実現に向け、取り組んでまいります。</p>